

2024 年度活動方針

1) ビジョンに基づき組織づくりを進めよう

ビジョンに示されたミッションと行動計画、短期目標の見直しを進め、それに基づいてふさわしい組織のあり方を明確にして、組織基盤を強化します。

1-1) ミッションの見直し、中期計画と短期目標の作成

河北潟湖沼研究所の30年間の取り組みについて総括します。特に、課題をどのように分析し、どのようなビジョンとミッションを掲げ取り組んで来たか、どのような成果が得られたかを分析します。

次の20年間の取り組みについて、現在のミッションと計画を修正します。

1-2) 財源の確保

ファンドレイジング計画を作成し、寄付キャンペーンに使うプロジェクトページを作ります。Syncableの寄付ページを研究所HPに組み込みます。

12月に寄付月間を実施し、件数、金額を増やします。

2024年度河北潟研究奨励助成のための拠出金10万円に対しての寄付を募る取組を実施します。今回から寄附金額に応じて助成金総額を決定します。

1-3) 仲間を増やそう

タイトルや見出しから活動内容が明確にわかる入会案内パンフレットを作成します。

年末に入会キャンペーンを実施します。正会員5名、その他の会員を10名増やすことを目標とします。

2) 研究活動を進めよう

河北潟ビジョンに基づき再汽水化に関する基礎調査や水田の生物について市民参加型の調査活動、機関誌紙の発行を進めることを目指します。

2-1) ビジョンプロジェクト

再汽水化に関する基礎調査を進めます。

再汽水化にかかるビジョンの見直し(水門等の扱いや望ましい塩分濃度)について議論を進めます。

地域循環共生圏プロジェクトについては、引き続き資料の収集を進めます。

流域再生プロジェクトについては、流域自然再生協議会の活動とリンクして話し合いの機会を設けます。

2-2) 市民参加型調査

干拓地での生物調査を市民参加型に切り替えます。

2-3) 機関誌紙

総合研究は編集委員会を開催し、投稿規定の見直しをおこないます。特集号の企画などに、新たな研究者に執筆者として参加いただくなどの取り組みを通じて、専門家とのつながりをつくります。第26巻、27巻の発行を目指します。

『かほくがた』は、ボランティアを入れた編集会議を開催します。早急に29-4を発行し、年度内に30-1~4を発行します。

3) 地域連携を進めよう

流域連携の仕組みを進め、流域協議会の発足を目指します。

3-1) 河北潟流域自然再生協議会

2024年度に法定協議会が発足できるように引き続き取り組みます。

3-2) 流域連携の推進のための部会

2つの部会を各1回以上開催します。

3-3) ラムサール条約登録に向けた連携

日本野鳥の会石川との連携を続け、河北潟のラムサール登録への気運をつくっていきます。流域自然再生協議会として取り組んでいけるよう進めていきます。

4) 河北潟の環境保全の環を拡げよう

河北潟の環境保全に取り組む人の環を拡げるための活動として、観察会やシンポジウム、田んぼの活動を進めます。

4-1) 観察会・シンポジウム

ごみ問題シンポジウム、流域シンポジウム、干拓地観察会を実施します。また、カヌーによるゴミ拾いと自然体験イベント、自然再生まつりでのゴミ拾いイベントとゴミゼロキャンペーンを行います。

4-2) 七豊米

生産と生物多様性の保全の両立のため、さらに市民参加を進めます。田植え、観察会(2回)、稲刈りイベント、日常作業を実施します。3枚の田んぼのうち1枚は「ハッタミミ

ズの田んぼ」としてハッタミミズの保全活動を実施します。

4-3) 吉倉研修館の活用

滞在型のツアーや地域の活性化、子供たちの学びの拠点としての活動を展開します。企業の研修を受け入れ、収益に結びつけます。

事業として展開するために、旅行業者の登録を目指します。

5) 自主事業の推進のために

常勤・非常勤スタッフを中心に、他の会員の協力のもと収益性の確保を進めます。同時に事業を持続可能な地域社会の実現のために活かします。

5-1) 生きもの元気米・その他の生きもの元気農産物（加工品を含む）

「河北潟を守る流域保全農産物」の認証シールを普及します。

生きもの元気米の購入者数が減少傾向にあることから、過去の購入者、活動参加者等へのPRを個別に実施します。HPの見直しを行い、元気米の基本的な目的や成果を再度PRし、新たな購入者の獲得を目指します。

一般に食味や栄養価、安全性で評価される米の価値に生物多様性を向上させることの価値を加える仕組みをつくります。生きもの元気米の目的やビジョン、解決したい問題などを明確化し、消費者や支援者の拡大につなげます。生きもの元気米の農地において生物多様性保全をすすめる仕組みづくりをすすめます。

5-2) すずめ野菜

マルシェと結びつくことで、すずめ野菜の取り組みへの理解が広がるので、生産と販売を結びつけて地域循環型の活動モデルとなるように引き続き活動を実施します。農薬不使用で継続的に野菜を生産しているため、農業体験・研修の場として希望者は積極的に受け入れるとともに、観察会やボランティア参加を募集します。

5-3) 金曜マルシェ

採算性の点から、祝日は来場者および通行人がすくないため、今年度も休日とします。米・仕入れ野菜・加工品販売ブースと、野菜販売ブースの2つで販売を進め、仕入れの工夫により収益性を高めます。寄付キャンペーン、会員募集キャンペーンなどを実施し、支援者を増やす取り組みを進めます。吉倉研修館のPRもおこないます。

5-4) ネットショップ

元気米の田んぼごとのお米の違いについて、わかりやすく図表にして選べるようにします。元気米の基本的な目的や成果をショップページに掲載します。ショップの変更を含

め改善をすすめます。

5-5) 市民科学出版, その他出版事業

独自出版について1件以上企画化します。また自費出版の受注を目指します。

6) その他の事業

現在の受注事業を続けることと、ホームページの作成管理などノウハウのある分野での受注を目指します。

6-1) こなん水辺公園

パンフレットは早急に制作できるように、金沢市に予算要求します。

6-2) 河北潟干拓地農村環境保全活動(農地水)

市民参加での調査を追求します。

6-3) 県植生保全事業

引き続き実施します。

6-4) ハッタミミズビオトープ

3年目の継続事業を実施します。

7) 助成金事業

助成金としてはエフピコ環境基金、ドコモ市民活動助成、サンライズ助成、タカラハーモニスト助成の活動を実施します。

7-1) エフピコ環境基金

流域の漂流ゴミの実態調査とゴミを減らすための啓発活動を実施します。

7-2) ドコモ市民活動助成

先進地の視察をおこないます。準備会を1回開催します。部会の活動をすすめます。

7-3) サンライズ助成

小学生と保護者によるハッタミミズ探検隊を組織して活動します。

7-4) タカラハーモニストファンド

研究者により能登半島地震の影響を調査します。

8) 30周年事業

今年度が河北潟設立 30 周年にあたることから、11 月 9 日(予定)に記念事業を実施します。そのための作業部会を早急に立ち上げます。